

### 三 萬機普益の法門

如來の大法は、萬機普益無礙の一道であつて、通ぜぬ所なく利益せぬ所はない。一人居て喜ぶ法であつて、同時に多人數で喜ばれる法であります。世間の事柄は仲々そんな譯に參らない。「佛法は一人居て悦ぶ法也、一人居てさへよろこぶべきに、まして二人よりあはば、いかほど有りがたかるべき」とは、佛法の一特長である。世の中の事、多くは一人居て悦ぶ法は、二人以上悦ぶ譯に行かず、二人以上にて悦ぶ法は、一人居ては悦べない。鍛冶屋拍子のトンチンカンになり易きを如何にせん。

勝つて喜ぶ者の裏には、負けて悲しむ者あり。酔うて歌ふ者の後には、飢えて泣く者あり。酒は百薬の長と云ふが、同時に百毒の長ともなる。金はなくてならぬと云ふが、同時に亦金が敵の世の中ともなる。雨の揚句は天氣でありますが、日和の次は屹度雨です。いつも月夜に米の飯、それは至極結構でありませうが、さうは問屋が卸して呉ず、天道様もそんなにお人好ではありませぬ。柳の木の下に何時も泥鰯は居らず、屋根の上には何時も烏は居りませぬ。

春風春雨好開花

春雨春風亦散花

昨日知音今日仇

人間萬事凡如花

春風春雨はいつも花を咲かすものかと思つたら、花を散らすのも矢張り、元の春風春雨であつた。親切な友達は何時まで、親切にして呉れるかと思つたら、却て今日は仇となつて居る。それに何時も花を咲かすものと思ひ、親切にして呉れるものと思ふから、がらり當がはづれる。當にすまじきものを當になるものと濟まし込んで、當にするから、當のはづれた時に、泣いたり恨んだり怒つたりする。大抵の人が、これこそ大丈夫だと思つて居る事も、まさかの際には多く當にならぬものであります。

或るお百姓の内へ、年若い一人の婦人が訪れて参りました。容貌美麗嬋娟  
窃窕、丸で花のやうであり、徳の光の輝きは、お月様そツくりでありました  
が、それも其筈、まぎれもない福の神の辨天様でございましたもの。サアそ  
のお百姓、有頂天になつて、家に請じ入れ、早速床の上へ祭り上げて、赤飯  
を供へる、大鯛を供へる。それはく仰山な供物を飾つて、どうか、どつさ  
りうんと、福を授けて下さるやうにと、一生懸命お願い致しました。すると  
今度は打つて變つた、卒塔婆小町も恐れ舞込むやうなのが、やつて参りまし  
た。「あなたは何誰で」と聞けば「おれか、おれは疫病神だ」といふ。先生堪り  
かねて、竹箒で叩き出す。「疫病神に用はない、さあ出て行け！」ひどい劔幕  
を見せても、疫病神はびくともしない。「おれはあの福の神の姉妹だ、あれは  
功德天、おれは暗黒天。あれの至る所、吉祥福德無量にして、おれの居る所  
不祥災害無限だ。併しおれは福の神の行く所には、何處へでも付いて行く、  
おれに出て行けと云ふならば、あの福の神も一緒に連れて行くぞ」と。柳眉  
ならぬ八眉を逆立て、夜叉の威を振ひます。恚うなつてはお百姓も仕方が  
ない。「貴様のやうな疫病神と一緒の姉妹ならば、福の神様にも用事はない」  
と、福の神も疫病神も諸共に、追出して仕舞つた。これで胸がさつぱりした  
と、それから初めて、本當の仕合が得らるゝやうだと云ふ事です。『涅槃經』  
一方で好いと思ふことも、一方で悪く、此方に都合よいと思ふことは、先  
方に迷惑となつて來易い。兄妹二人の子供を持つた家の両親。兄は至つて醜  
い、妹は至つて美しい。どうにか共に悦ばせたいと、親は心配でなりませ  
ぬ。兄は毎日鏡に向つて、こんな顔では到底も嫁を娶ることは出来ない、一  
生獨身で暮すやうのことなら、死んだ方が勝しだと、明けても暮れても、塞  
ぎこんで居る内、氣もウトくとして、遂々精神に異常を來たした。之を眺

めた親達は、立つても居てもたまらぬ。どうかして心の休まるやうにしてやりたいものと、種々苦心の末、不圖思ひ付いて、兄に向ひ「或る識者から聞いたに、業平さまを信仰すれば、如何な醜い男でも忽ち美男子になれるさうな、お前も今から信心せよ」と言ひ含め、一方或る洋畫師に頼んで、幾分似寄つた所を拵へて、綺麗な顔を畫いて貰つて、それをそつと鏡の中身とすりかへて置いた。何も知らぬ兄は、もう一週間も祈願をして居るから、少し位美しくなつたであらうと、鏡をとつて見るなり。これはしたり、美しいともく、全然生れかはつた程の美男子。さては信心の功驗もあつたかな、有難やくと打ち喜ぶと共に、病氣も快くなつて仕舞つた。そんな事の仕組があると露知らぬ妹。翌朝、何心なく髪かきつけやうと、鏡に向つたが大變。大聲を發して「お母さん、胴慾な、誰が私の髪をこんなに切つたのです」と、絶え入るばかりに、驚いたはづみに、妹は氣が狂つてしまつた。可愛相な妹である。

萬機普益、平等一相の法は、如來の本願南無阿彌陀佛より他はない。さればこそ如來に選擇と云ふことがあり、「布施持戒乃至孝養父母等の諸行を選り捨て、専稱佛號を選り取り」給ふたのである。而して此の一名號の中には「彌陀一佛のあらゆる、四智・三身・十力・四無畏等の一切の内證の功德、相好・光明・說法・利生等の一切の外用の功德」皆攝在して、衆水一味、俱會一處の

大益を得しめ給ふのであります。